●安曇地区●
669世帯
男　662人
女　641人
合計　1,303人
R5.3.1現在

そりあそび交流会

乗鞍保育園の園舎横にある山の斜面を利用して、毎年、そりあそびの２園交流があります。

初めは、滑るのが怖くドキドキしながら職員にしがみついて滑っていますが、回を重ねるごとに怖さがとれ、一人で何回も斜面を駆け上って滑るようになります。乗鞍の友だちとも、自然な形で、助け合って斜面を上ったり、二人でしっかりつかまりあっての二人滑りを楽しんだりと稲核では味わえないダイナミックな遊びを乗鞍の友だちとたくさん楽しむことができました。最後に、色水を使っての「かき氷作り」も楽しかったです。「また、行きた～い！」と言っています。

安曇保育園　園長　百瀬あさ美

松本高山地域連携ＤＭＯの勉強会について

令和４年８月から、松本高山 BigBridge 構想実現[※1]プロジェクトの一環で、両市の観光協会や行政機関等を交え、松本高山地域連携ＤＭＯ[※2]の組成について勉強会を行ってきました。

全５回のワークショップ形式でなぜ地域連携ＤＭＯを組成するのか、地域連携ＤＭＯは何を実施するのか等をみなさんで議論しました。

松本市アルプスリゾート整備本部　丸山健太

※1 中部山岳国立公園を間に挟み、松本市街地と高山市街地を繋ぐ横断ルートを〝BigBridge（ビッグブリッジ）〟と位置づけ、地域関係者・行政関係者が一体となって多彩で上質な体験と滞在ができる魅力的な観光ルートに磨き上げていく構想のこと

※2 複数の地方公共団体に跨がる区域を一体とした観光エリアとして捉え、マーケティングやマネジメント等を行うことにより観光地域づくりを行う組織

▲今後の高山市との交流が楽しみになりそうです

「まつもと日和」完成上映会

ドキュメンタリータッチの地域映画として生まれ変わった、昭和の8ミリフィルム達。大勢の目に触れる機会を得て、嬉しく誇らしかったでしょう。懐かしい風景や無邪気な子供達の姿に笑顔になり、水害時の様子には眉をひそめ、出征祝いの映像では涙腺が緩み…真実を写し出す、映像の説得力にはかなわないと思いました。大きな画面から、その時代の人々の大らかさや、心から楽しんでいる気持ちが伝わる、素晴らしい映画でした。

橋場　土屋 明美

◀松本城と児童遊園地（S37頃）

▶美鈴湖スケート（S38頃）

大野川中 乗鞍

乗鞍PR活動を通して

私たちが生活している「乗鞍高原」。たくさんのお客さんがこの地を訪れてくださいますが、以前に比べ、外国の方々が増えたなと実感しています。一方で、コロナ禍の中で訪れる全体の人口は、かなり減ってしまったと思います。

乗鞍の良さを沢山の人に知ってほしい。そして、コロナ禍のこの世の中の流れが少しずつ変わり、再び自由に旅行できるようになって乗鞍に来てほしい。そんな願いを叶えるために、私たち大野川中学校の生徒で、総合的な学習の時間を使って「乗鞍PR活動」を行いました。

今年度の活動は、地域の方や、先生方と協力して準備をしてきました。乗鞍の風景を写真に収めた「ポストカード」を作ったり、増えすぎてしまった白樺を切り、それを削って絵をかいた「白樺のコースター」を作ったりしました。その他にも、乗鞍の旅行プランパンフレット、魅力の詰まったチラシなども作りました。どれも難しく、準備に苦戦したところもありました。しかし、皆の思いのこもったものが仕上がりました。私は白樺コースター作りを担当し、ヒートペンで絵を描きました。回数を重ねるごとに、とても上達することができました。松本城で活動した時に、お客さん達も、「すごくきれいで行きたくなった」などと言ってくれる方がたくさんいて、頑張ってよかったと思いました。

1年　関沢　音愛

安曇小中学校

元気な安曇っこ

上高地線100年と安曇

２月３日（金）、松本市文書館より窪田雅之先生をお招きし、「上高地線100年と安曇」のご講演を、小学校４年生から中学校３年生がお聴きしました。

前半は、上高地線がどのようにしてつくられたのか、生活がどのように変化したのか、を資料館からお持ちいただいたたくさんの資料や写真で詳しく楽しく説明してくださいました。

後半は安曇地区の歴史を、本校の先輩方が作った「安曇かるた」をもとにお話いただきました。

児童生徒のみなさんの感想

●安曇地区のお話では、善光寺の屋根の修復の時、この辺の材木を使っていたということを知ってびっくりした。（小４）

●上高地線は、最初上條さんが中心になって作っていて、やっぱり（作ることに）反対する人はいると思っていたけど、あきらめなくてすごいと思った。（小５）

●上高地線があったおかげで、安曇はとっても発展して、今の安曇になっているから嬉しい。村の人たちの生活を助ける存在になっていると思うから、もう100年もたっていて、100年も支え続けているけど、これからも助ける存在になってくれたら嬉しいし、この電車に乗ってたくさんの観光客の人が来て、この景色に感動してくれたら嬉しいな、と思った。（小６）

●上高地線は今、登山者や観光客でにぎわっているが、昔は地元の人も松本に行ける楽しみ、喜びがあって、生活が一気に変わった大切な鉄道なんだ、と思った。（中１）

●窪田先生が最後に「中から見る人（安曇に住む人）が、安曇を好きにならなければ発展しない」と言われた。その言葉が心に深く残った。「ふるさと安曇の明日」に向けて、まずは身近なことから取り組んでいきたい。例えば生徒会活動の一環として、地域住民との会話や交流などに目を向けて安曇を活性化する目的を持ったり、安曇に住む移住者の方や若い方の力を借りて安曇を発信することに目を向けるのも良いと感じた。（中２）

●人が減ってきているので、人が安曇に興味を持ち、「また来たい」と思ってくれたり、「ここに住みたい」そうやって思ってくれたりするような安曇にしたいと思った。安曇を知ってもらうためにダムの建設の表と裏みたいな展示をしてもらえたらいいな、と思いました。（中３）